脳活性化リハビリテーション

第11回

地域で取り組む音楽療法・回想法・ アートセラピーと脳活性化リハ



●地域で取り組む認知症予防プログラムは、参加者とスタッフが活 動をいっしょに楽しめる明るい雰囲気をつくることが大切 ●相手をほめたり相手にほめられるような関係は、参加者のやる気

●参加者同士のコミュニケーションを促すためには、少人数のグル ープ編成やスタッフの介入が効果的

●参加者がプログラムに対して受け身にならず、役割をもって活動 できる工夫をする

参加者が活動を楽しみながら成功体験を重ねられるよう、失敗し ない活動を選び支援する

由な自己表現やコミュニケーションを促

しました。

これらの療法はいわゆる非薬物療法と

脳の活性化・意欲の向上・情緒の

った創作活動を用いながら、

参加者の自

物や出来事に思いをめぐらせました。

アートセラピーでは、絵画や造形とい

とを語り合ったり、

いっしょに過去の風

回想法では、参加者自身が体験したこ

を過ごしました。

楽器を演奏しながら楽しく活動的な時間

っしょになじみの歌を歌ったり、

簡単な

参加者の多くは元気な方がたでしたが、 参加したのは同市在住の高齢者な人です。 亀ヶ谷忠彦

群馬大学大学院 保健学研究科 助教・作業療法士

監修:山口晴保

保健学研究科 教授·医師

群馬大学大学院

地域で取り組む認知症予防プロ

ラピーの内容

音楽療法では、

スタッフと参加者がい

音楽療法・回想法・ア

1 セ など)しました。

のプログラムを実施しました。 在宅の高齢者を対象に週1回、 ピー」(以下、 知症予防プログラム「脳若返り芸術セラ セラピーの三つの療法を組み合わせた認 脳若セラピーの会場は市内の公民館で N市では、音楽療法・回想法・アー 脳若セラピー) を企画し 3カ月間

参加者の認知機能を刺激する点に特徴が あります。 動する音楽療法士・作業療法士・アート も集団で知的な活動を行うことによって セラピストで、これらの療法は、 含まれていました。音楽療法・回想法・ なかには認知機能に低下がみられる方も 脳若セラピーは毎回9分のプログラム トセラピーを担当したのは同市で活 それぞれの療法を一つずつ行った いずれ

> が増すといった効果が期待できることか 安定・表情が豊かになる・他者への関心

を歌いながら回想法のセッションを行う 実施(たとえば、音楽療法で懐かしい歌 です。 あるいは複数の療法を重ね合わせて

工夫をしました。

法を行うにあたり、脳活性化リハビリテ

ションの原則に基づいて以下のような

きました。脳若セラピーではこれらの療 ら、医療や福祉の現場で広く用いられて

自信が高まる効果がみられました。 め合うことによって、参加者のやる気や 作品を鑑賞しながら互いにほめ合う・認 をみんなで鑑賞する時間を設けました。 ②ほめる・ほめられる関係づくり トセラピーで参加者が作った作品

①快刺激で笑顔

心地よい刺激は参加者の笑顔を生みだ

意欲を高めます。

脳若セラピーのス

脳活性化リハ

の原則と脳若セ

互いに共感し合う雰囲気を生み出すこと 者が思い出話を活発に語り合うことで、 た。グループで回想法を行う際のポイン 者同士のコミュニケーションを促しまし ができました。 に懐かしみ、共感し合うことです。参加 トは、心に残る大切な思い出をいっしょ フや地域のボランティアが加わり、 プに分かれました。各グループにスタッ 回想法で、参加者は4~5人のグルー 参加

4役割を演じる

の低下した参加者を上手にフォローする ました。元気で健康な参加者が認知機能 り掲示するなど、 えば音楽療法の歌詞カードを探しだした 行いました。またプログラム中も、 の準備や片づけをスタッフといっしょに 参加者は、 プログラムで使用する用具 いろいろな役割を担い たと

参加者もスタッフもいっしょに楽しく活動しました

郷写真 アートセラピーで行った染物作りの様子

自信や活動に対する満足感につながりま け身でプログラムに参加するばかりでな プの活動に貢献することは、参加者の 自分自身の役割や働きを通じてグル

ような場面もしばしばみられました。

⑤成功体験 (失敗を防ぐ支援)

定的で前向きなフィードバックを与える

タッフは参加者の活動や発言に対して肯

③コミュニケーションで安心感

など、明るく楽しい雰囲気づくりに努め

敗をしても見栄えよく仕上げられるよう とえばアー を重ねられるような工夫をしました。た な作品を選びました。 ような作品を選んだり、 不得意な方でも楽しく気軽に取り組める 参加者が活動を楽しみながら成功体験 トセラピーでは、創作活動が 途中の工程で失

脳若セラピーが参加者に及ぼ した効果

向上につながったと考えられます。 後で比較したところ、 しながら行ったことが参加者の認知機能 に基づいて、 する三つの療法を、脳活性化リハの原則 められました。参加者の認知機能を刺激 力・言語能力など幅広い領域で向上が認 参加者の認知機能を脳若セラピーの前 明るい雰囲気で楽しく交流 注意機能や記憶

41 小板的多 2013.3